



Higashimurayama City International Friendship Association

東村山市国際友好協会 第103号

おもてなしに感動しました!!
昨年10月姉妹都市35周年記念で来市された、インディペンデンス市の訪問団員から届いた感謝のメッセージ



トワイラ・オルソン

今回の訪問は協会の努力のおかげでも素晴らしいものとなりました。ホストファミリーの菊池由紀子さんは私の姉であり、彼女の家族は私の家族です。

彼女と私の共通の興味は食器。彼女と娘の真由美さんは都内の食器店に連れていってくれました。

同じデザインのもの、私はスープ皿、彼女はラーメンボウルを買いました。このお皿を使うたび姉の由紀子や彼女との友情を思い出すのです。



キャロリン・ヒンケル

6年前に初めて訪れて以来、日本はお気に入りの場所となりました。今回私をホストしてくれた友人や古い友人と交流し、素晴らしい食事をいただき、この訪問は私にとって素敵な体験となりました。



ダン・ジェフリーズ
ダイナ・ジェフリーズ

姉妹都市交流に関わってきて、今回35周年記念での訪問が最高の体験となりました。協会の方々のホストファミリーは素晴らしかったです。一番の思

いはホストファミリーそして、私がホストをした派遣生とその家族と共にした夕食の時間です。

今年もまた派遣生の受入れをしたいと思います。いつか日本に戻ってきたいです。誰にでも勧めたい貴重な体験でした。



ピーター・ハーン

今回出会った東村山の皆さんに感謝。多くの方々に知り合えたことをうれしく思います。特に伊藤昭三さん家族、そして清水和人さんに感謝します。

私が受けた思いやりと親切を思い出すと今でも微笑んでしまいます。今回の訪問は私の人生に深い影響をもたらしました。もっと日本語を勉強しようと思えました。



ステイシー・ハム

訪問団の誘いを受けたとき貴重な経験になると思いましたが、どれだけ私の人生に変化をもたらすかは気づいていませんでした。今回日本の文化や人々について多くのことを学び、素晴らしい友情を築くことができました。特にホストファミリーの森さん一家と私たちの絆は生涯私を変えていくでしょう。

もっと姉妹都市交流を学びか



ティム・ハーン

かわっていいこうと考えました。東村山市をまた訪れて友人たちに会いたいと念願しています。

初めての日本でしたが、とても楽しかったので将来戻ること

をもう考えています。私たち訪問団はいつもと違う食事と体験を共有。協会の皆さんのおもてなしに感動しています。

特にホストファミリーの藤原さんには感謝。幸博さんと榮子さんは私の家族、協会の皆さんは私のグローバルファミリーです。この交流で互いの距離を近づけ、平和で互いを思いやる社会を作っていくことでしよう。

(伊藤陽子 訳)

35周年記念行事を終えて

35周年事業では、交流部会と行事部会とが協力して、会議を重ね運営に当たりました。

交流部会長 小山昭子

交流部会の活動は、昨年5月9日〜18日イ市へ渡部市長を団長に29名の親善訪問団の派遣か



もう一服いかがですか。

ら始まりました。故郷のように何度も訪問されている方、初めての参加に不安と緊張の方、訪問団員の皆がイ市の皆様の心温まる歓迎に、35年にわたる交流の深さ、絆、友情に改めて感激・感動しました。

そして10月10日〜15日には姉妹都市委員会委員長トワイラさんをはじめ18名のイ市の訪問団が来日されました。

日本の文化を楽しんでいた

こうと、お花、茶道、着付け、うどん作り、二中訪問、鬼怒川ライン下りと新しい体験を入れ、訪問団の皆さんから、楽しくエキサイティングなプログラムだと喜んでいただけました。

この交流部会では、役割分担を明確にして、企画・実地調査、訪問団滞在中には全交流部員が各事業に参加して、にぎやかに交流を図り、40周年に向けての輪を広げました。

多くの皆様のご支援、ご協力をいただき、1年間を通して35周年事業に楽しくかわれられたことに、深く感謝申し上げます。

行事部会長 倉田哲也

昨年10月の記念行事のために、行事部会は1年前から準備活動を開始しました。

当初の計画では記念式典として多くの会員を迎えて美味しいお料理で華やかに開催できる会場として所沢のミューズを予約しました。

しかし、昨年5月の親善訪問



おハシ上手ですね。

団帰国後の報告で記念行事はカジュアルにとイ市から要望を受けました。急ぎよ記念式典会場は招待人数を削減し、お料理もケータリングの和食御膳に変更して、「ウエルカムパーティー」「また会いましょうパーティー」と同じ会場の市民センターに変更しました。

特に記念式典では、参加者、プログラム内容等の最終確定が開催前日まで掛かり、スタッフとして大変苦労しました。また挨拶の人数が増え、時間も長引き参加者にご迷惑をお掛けしました。会場では生バンド演奏が好評を博し、さらにイ市訪問団員の飛び入りエンターテイメントが式典を盛り上げました。

結びにイ市から「今回の行事は大変すばらしく、楽しかった」との礼状を賜り、行事部会スタッフの苦労が報われたような気持ちです。

お知らせ
H26年度の総会は、
5月17日(土)2時
市民センターにて
開催します。

イ市での体験は生涯の宝

派遣生OB・OGの声

前号でOB・OG会が発足した事をお知らせいたしました。出席した中の7名の方々にアンケートの回答を頂きましたので、まとめてみました。（敬称略）

天野正輝（第1回派遣生引率）

吉川敏子（第3回派遣生引率）
第25回派遣生引率

矢島洋子（第3回派遣生）

水上麻美（第5回派遣生）

村山輝紀（第10回派遣生）

森山雄介（第29回派遣生）

今井 晃（第30回派遣生）



Q1、近況について

- 絵画教室や体力作りに邁進。
 - 学校支援ボランティアや派遣委員として活動しています。
 - 国際友好協会の会員です。
 - 市内に在住しています。
 - 弁護士をしています。
 - 派遣委員及び就活中です。
 - 大学入試に備え勉強中です。
- Q2、イ市での思い出など**
- 広大な国土と市民の親切。
 - 異文化に触れ、派遣生同士の支え合いなどがプラスの体験に変えられたことは私の誇り。
 - ホストマザーとは30年以上の

交流が続く「日本の娘」として大事にして頂き、異国に「家族」を得たことは、生涯の宝。

○ 見聞する全てが新鮮で、多くの方が親切で楽しかった。

○ 米国の生活を肌で感じ、見聞する全てが、興味深かった。

○ ホストファミリーなどの歓迎や交流は、イ市を第二の故郷と思える程濃密な体験。

○ イ市での出会いや友達が出来たことは忘れられない。

Q3、派遣生としてイ市へ行ったことで活きていること。

○ 異文化を受け入れ、差異を認める精神と対話の重要性を体感。

○ 英語力の無さを痛感し、語学の向上に務めたことが、その後の進路に繋がった。

○ 多くの知己を得、正に「人と人」の繋がりを得られたことが私の人生の中で大切な財産。

○ 後から一人で渡米したが、その体験が私の行動力を高めた。拙い英語でも理解してくれた方々との繋がりが「伝える」ことの大切さを学んだ。

○ 生の英語に触れ、高校での英語の授業は苦勞しなかった。

Q4、今後についてなど

- 国際友好協会に参加し受け入や派遣などを手伝いたい。
- OB会を中心に、「手を繋ぐ世界市民の輪」を拡げたい。
- 派遣委員として、自分の素晴らしい体験を伝えたい。

姉妹校だより

姉妹校友の会（回田小）では、毎年來校してくださる訪問団に手作りのプレゼントを製作しています。言葉が通じ合えなくても手作りの温もりを感じてもらえたら、それも交流の一つなのかなと思います。

昨年は35周年という年で大人の方が來校されました。今回は従来と趣向を変え、校庭で運動会の練習の一部を見ていただくことにしました。

屋外での見学は天気や気温の心配もありましたが、当日は天気に恵まれ、ほどよい風もあり気持ちの良い空になりました。



回田小の生徒による和太鼓の演奏

練習の合間の中休みでは、自然とお互いに近づく子供達と訪問団の方達を見て、こういった交流も穏やかで良いなと温かい気持ちになりました。

姉妹校友の会 山口 幸子

役員研修会

本年度の研修は、「東村山を知ろう」の3回目として、2月7日（金）に㈱ポールスタア（賛助会員）と東村山市民スポーツセ

ンターを見学しました。ポールスタアは無添加のソースを製造販売する市内のメーカーで、「黒焼きそばソース」がよく知られています。工場内の安心・安全な製品を作るための充填ラインや品質管理室などを見学しました。



ソース工場見学風景

スポーツセンターでは、体育室、武道場、トレーニング室などの施設を見学しました。スポーツ医科学室では、市民の健康を専門家がチェックして、適切な運動を指導してくれることを学びました。現在民間に委託された年中無休施設となっています。（会員交流委員会）

募集 英会話講座

4月9日（水）から6カ月間。詳細は3月1日付市報、当協会HPをご覧ください。英会話委員会

目からウロコのマナー講座

英会話委員会主催で昨年7月、12月に「グローバルバリエーション」の中で役立つマナー・コミュニケーション能力即講座が開催されました。昨今、海外旅行や外国の方と接するこ

とが珍しくなくなりましたが、習慣の違いや振る舞い方まで強く意識したことはあったでしょうか。講師の堺真理子先生には具体例を挙げて話していただきました。名刺交換、席次、テーブルセッティング、食後のナプキンの置き方など多岐にわたる事柄に「目からウロコ」の思いで聞き入りました。まずは気持ちのマナーアップから始めることと、次の開催を望む気持ちが強くなりました（講師、講座の内容は協会HPに掲示されています）。総務理事 高野恵一



堺先生のマナー講習

マナーを楽しく学びました

堺先生のマナー講座への参加は、昨年の7月に引き続き、今回で二度目です。印象に残った話は沢山ありました。例えば、乾杯の合図でグラスを持ち上げるだけで、周りの参加者とグラスをぶつけ合ってはいけないというお話がありました。高価な食器を気遣うことがこのマナーの根底にあります。このように、公共の場や身の周りの事例を通して、マナーやそれが成立する背景についての知識を深めました。マナーとは人々がお互いに気持ちよく過ごすために生み出された知恵や礼儀作法であり、

訃報

1月15日、宮崎愛子（享年84歳）氏をご逝去されました。氏は第1回親善訪問派遣団、引率者としてイ市へ訪問されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

今年度最後の広報は、35周年にイ市から来日された方々の感想、学生でイ市を訪問された方々のアンケートをまとめました。皆様からのご意見をお待ちしています。

人と人

発行：東村山市国際友好協会

編集：広報委員会

東村山市本町 1-2-3

東村山市役所内

☎ 393-5111 内線2558

http://www.h-ifa.com/